

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4572100636		
法人名	医療法人社団慶城会 神舞の里		
事業所名	グループホーム仰星台門川		
所在地	宮崎県東臼杵郡門川町大字川内新堂2671-2		
自己評価作成日	平成28年11月10日	評価結果市町村受理日	平成29年1月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.in/45/index.php?action=kouhou_detail_2015_022_kanistrue&jisyosyoCd=4572100636-00&PrefCd=45&Version=02
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成28年12月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

市街地から離れた山間にあり、清閑で自然豊かな場所にあります。ホームの理念である『利用者様の気持ち、同じ目線になって心の通う介護を目指します』をもとに職員一同が理念を共有し、個々を尊重したケアに取り組んでいます。また個々の能力に応じて、利用者様に出来ることをお願いしています。今年の夏はホームの裏にある畑を耕し、利用者様と一緒に夏野菜を育て、収穫、食材として頂きました。また母体が医療法人のため、支援体制も充実しております。環境にも恵まれた施設での生活をのんびりと楽しみ、かつ安心して生活出来るように支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

山間地域の穏やかな自然の中にあるホームであり、管理者及び職員は理念を基本とし、利用者と同じ目線で、目配り・気配りに配慮した支援に日々取り組んでいる。地域の小・中学生がボランティアや体験学習に訪れたり、近隣の幼稚園とも交流があり、利用者の楽しみの一つにもなっている。また、ホーム内にデイサービスとショートステイが併設されており、利用者間の交流もある。職員は外部研修や法人の主催する研修に参加し、職員間で情報の共有に努め、日々の支援に生かせるよう努力している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員一人一人が理念を念頭において利用者様を支援し、利用者様の立場になって心の通うケアに努めている。	全職員で話し合い、常に意識を持ち共有できる理念に変更している。理念である利用者の気持ち、利用者の目線に立ってを意識しながら、全職員で取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	出来る限り、地域の行事には参加している。開放された環境作りに努め、地域や地域の児童館、小・中学校との交流を図っている。	地域の祭りや小・中学校の合同運動会へ参加したり、近隣の幼稚園と交流を図るなどしている。また、隣の公民館や体育館で行われる地域の行事に利用者と共に足を運ぶなどしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域に活かされているかどうか分からないが運営推進会議等を通して認知症の人の理解や支援の方法を共有出来るよう努めていきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	出来るだけ全職員が会議に関われるよう工夫している。また会議結果を議事録によって職員に知らせている。必要に応じてカンファレンスでの話し合いを持っている。	地域の人をはじめ、様々な意見がしやすいように取り組んでいるが、ホームからの報告などに終わることが多い。	昨年度の課題でもあり、現在双方向の会議となるよう取り組み中である。利用者の家族の参加をはじめ、意見の出しやすい会議となることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行き来する機会は少ないが町が主催する行事や研修にはなるべく参加するようにしている。また分からないことがあれば電話で聞くようにしている。運営推進会議にも出席していただいている。	町の担当者が運営推進会議に参加しており、折に触れ利用者の様子を尋ねるなど、連携を図っている。管理者も分からないことがあればすぐに電話で聞くなど、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	見守り、所在確認を行いながら、ケアを行っているが施設が高台に位置し、出口付近は急な坂道があり、危険な為、やむを得ず施錠することがある。鍵の場所は理解できる方には教えている。	夜間は危険防止のため玄関に施錠しているが、管理者、職員は身体拘束の意味を理解し、見守りの支援に努めている。言葉による拘束についても研修がなされている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に行く機会は少ないが、機会があれば参加するようにしている。虐待については声掛けなどを意識し、ケアを行い虐待が無いよう注意を払い、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修の機会は少ないがあれば参加するようにしている。制度についてのパンフレットを玄関においている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には不安や疑問等を尋ね、十分な説明をしている。契約後も御本人や御家族の面会時など気付いた事や不安についても尋ね、声掛けするようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関には苦情投函箱を設置している。また第三者委員も設置している。面会時には声かけをし、コミュニケーションが図れるようにしている。不安や苦情が気軽に言えるような雰囲気作りをしたい。	玄関に苦情箱を設けている。家族の来訪時に状況を報告すると共に、不安や意見を言いやすいよう雰囲気づくりに留意している。出された意見や要望は会議で検討し、反映できるよう努力している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のカンファレンス等で職員が意見を言う機会はある。また毎日の申し送りなどでも職員の意見や提案を発言してもらっている。	日々の申し送りや会議の中で意見の出しやすい関係づくりがなされている。寒くなったため、利用者のために入浴時間を変更したいとの案が職員から出され、すぐに対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与水準、労働時間のことはよく分からないが研修等には行かせてもらっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職務に合った研修、勉強会に参加する機会を与えられている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修の場で他施設との情報交換をしたり法人内でも定期的に交流会を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	傾聴に努めている。またカンファレンスや申し送り等で統一したケアが出来るように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	現在のところ相談される御家族は少ないが面会等の機会を工夫して、コミュニケーションを図るようにしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	要望を聞いた上で、対応出来るか出来ないかを判断し、対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に過ごす時間を多く持ち、会話を持つことでいろいろな話が聞いている。また一緒に作業することで同士の関係が築けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には利用者様の日常を伝え、意見を聞き、ともに共感できる雰囲気作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外泊や外出、御家族との面会を勧めている。また本人の望む場所に、馴染みの場所にはご家族と相談し本人の行きたいところへ連れて行ってもらっている。	家族の協力を得て、利用者のなじみの場所や関係が途切れないよう支援がなされている。現在も昔から行きつけの美容室へ通う利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中はなるべくホールで過ごしていただき、他の利用者様や職員と関わりが持てるようにしている。トラブルがあるときは職員が間に入り、孤立しないように話を傾聴している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後の継続的な関わりは持っていないが、入院時には御見舞いに行ったり、御家族に電話を入れたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来るだけ把握に努め、希望に添えるように努めている。また意思疎通の取れない方はご家族と話をし本人本位に検討している。	日々の支援の中で声を掛け、言葉や表情などから希望や真意をくみ取るよう努めている。意思疎通が図れない利用者については、家族や関係者との対話の中で利用者本位の検討がなされている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	その方の暮らしに必要な情報を御家族や本人様より聞き出し、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	有する能力に応じて、身の回りのことやお手伝いをしてもらっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、カンファレンスを実施、必要に応じて御家族に相談するなどして作成している。	担当制としているが、アセスメントを含めモニタリングやカンファレンスを行い、全職員で話し合いがなされている。情報の共有を図り、本人に寄り添う介護計画となるよう努力している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録や申し送り等にて情報は共有し、実践や見直しに努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療連携体制の取り組みや通院、外出、外泊等多機能を活かした柔軟な支援を行っている。他科受診の際には御家族にも御協力を得ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	個別的は難しいが、全体的には民生委員、ボランティア、消防の方々と交流は出来ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	支援できている。必要に応じてご家族と協力してもらい、他科受診もしている。	入居前から法人の母体病院をかかりつけ医とする利用者が多く、定期的に受診支援がなされている。他科受診時は家族と連携を図りながら、必要に応じ支援をし、受診後の情報の共有も図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員が常勤として務め、日常の健康管理が出来ている。日常の健康管理には全職員が把握するように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	状態や入院期間についての連絡を取り、対応するようにしている。また情報提供書などを活用している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早めにご家族と連絡を取り、相談を行い職員間で共有している。終末期ケアについては終末期をグループホームで迎えるかどうかをご家族と相談し、早い時点で決め、職員、御家族、医師との連携に努めている。	契約時に意思確認書を作成し、共有している。利用者の状態の変化に伴い、本人や家族の意向も踏まえ、医師、職員が連携を図り取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急法の勉強会を定期的にするように努めている。マニュアルも作成している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、防災訓練を行っている。区長さんや民生委員や行政の方にも訓練の様子を見て頂いたり、協力を得ている。	定期的な防災訓練を運営推進会議の前に行うことで、アドバイスをもらうなどしている。また、町の福祉避難所に指定されていることから、備蓄もなされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉掛けや対応の仕方については気を悪くされない様に注意している。	法人での接遇研修などに参加している。理念の一つである利用者の気持ちを大切に、日々の支援の中での声かけや対応に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	御本人の思いや希望を出来るだけ引き出し、納得のいくよう生活が出来るように支援している。決定が難しい方は表情や様子を見ながら支援するようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望に添えているかどうか分からないが、各個人に合わせ、マイペースに過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	御家族の協力を得て行きつけの美・理容室に行かれたり、化粧品や口紅等を自分で持ってつけられたりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	介護度の重度化が見られ、出来る人は限られているが、個々の能力に応じて、台拭き、箸配り、下膳、食器拭き、味見等の御手伝いをお願いしている。また利用者様の希望に応じて好みのものを提供している。	利用者ができることは一緒に作業している。園庭での野菜の収穫を共にし、料理に使うなど工夫している。また、苦手な食材がある利用者には、好みのものに変更して食事が楽しめるよう配慮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食後の摂取量のチェックを行っている。また個人に合わせた形態・量などの工夫もしている。野菜中心としたバランスの取れた食事を提供出来るように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人一人の能力に応じて、口腔ケアの支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の声掛け、誘導、見守り、各個人の能力に応じた支援を行っている。また紙パンツ、布パンツの切り替えなどは必要に応じて職員間で話し合いを持ち、対応している。	排せつチェック表を利用し、声かけやさりげない誘導がなされている。家族と相談して便秘予防に飲み物も取り入れるなど工夫している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、排泄チェックを行い、一人一人の状態の確認を行っている。出来るだけ薬に頼らないように、水分摂取、食事の工夫、また散歩を取り入れるなど便秘の改善に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日、入浴を行っているが、時間を希望される方は現在いらっしゃらない。要望があれば出来るだけ対応し、検討していきたい。	入浴は一人ずつゆっくり浸かれるよう、希望に合わせて支援している。入浴を拒む利用者には、声かけのタイミングや誘導の方法に配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	御本人様のペースに合わせた時間に居室へ戻り休んだり、また空調の整備、不眠時の対応も日中の散歩や外気浴を取り入れたり、状況に合わせて行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各個人の服薬の効力や変更については職員間で申し送り等を通して把握するよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除や洗濯物のたたみ方、食事の下膳、食器洗い、歌を歌ったり、新聞を読んだり一人一人が楽しみを見出せるように支援している。またおやつも個人で好きなものを御家族が準備したり、好きなときに食べてもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	長期入所のため重度化が進み、外出する機会は少なくなったが地域の行事ごとに参加したり、ご家族と一緒に外出されたりもしている。地域のイベント(運動会、夏祭り等)にも参加している。	日常的に広いホームの敷地内や近隣の保育園まで散歩している。公民館で行われる行事や夏祭り、学校の運動会へ参加するなど、地域の人と触れ合う機会が多い。また、家族の協力も得て外出の機会も多く設けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御家族からおこづかいを預かり、職員が管理している。こづかい帳をつけ、定期的に御家族に報告している。外出時には買いたい物を買ってもらったりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御本人の状況、状態、御家族の都合により出来ないこともあるが、出来る限り支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花や写真を飾り、ゆっくりと過ごせる空間がある。台所もホールへと続いており、食事を準備する音、匂いも生活のなかで楽しめていると思う。また時間に合わせて音楽をかけたりしてくつろいで頂けるよう心掛けている。	共用空間は広く、利用者が思い思いの椅子やソファでくつろげるよう配置している。利用者と職員で作った折り紙や作品、また、季節の花を飾り、ゆっくりできるよう配慮・工夫がなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはソファを置き、それぞれが腰かけるようにしている。利用者様同士、腰掛け、会話も見られる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物を持ち込んで頂くようにしている。居室の片付けが出来る方にはおまかせし、見守るように配慮している。また御家族が面会時衣替えされたり、片付けされたりもしている。	利用者の使い慣れたたんすや思い出の品々をそれぞれの部屋に飾り、居心地良く過ごせるよう配慮している。来訪時にゆっくり居室で過ごす家族もおり、飾り付けを利用者と家族で楽しむことで、より落ち着ける温かい雰囲気のある居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	時々、居室を間違えられたり、分からなかったりする利用者様には付き添い、混乱を防ぐ為、目印となるものを置いて説明したりしている。		